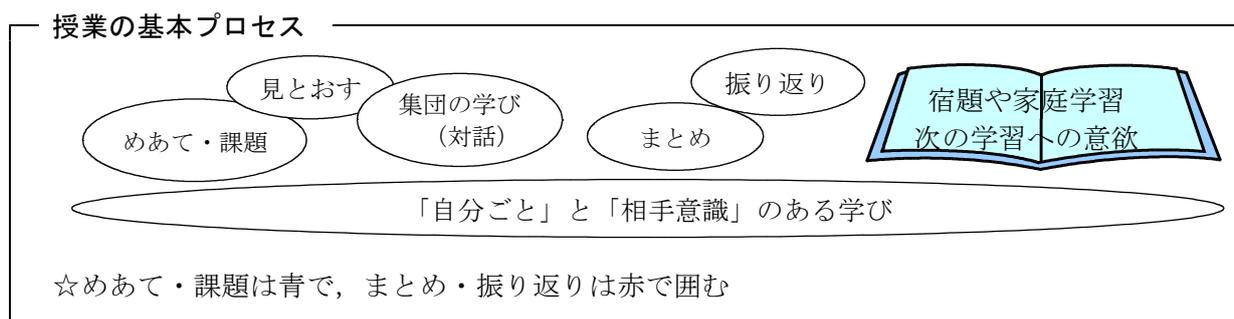


共通実践事項 「男鹿南中授業スタンダード」



1 魅力ある課題の設定と出会わせ方（導入）の工夫

【課題設定・導入】

- ・生徒とめあて・課題をつくる。（×今日の学習課題は〇〇です。）
- ・めあてと課題（その時間に解決すべき事柄，疑問形）の区別を明確にして示す。
- ・実際の生活や社会で直面するような場面との関連性が見いだせるようなめあて・課題を設定する。
- ・1時間（単元）の学びの後，どのような力が身に付き，どのような生徒の姿を具現化したいのか具体的に考えてめあて・課題を設定する。
- ・実態や学年に応じて難易度を精選し，生徒が主体的に向き合う価値（学びがい・やりがい）のある題材や課題を選定する。（容易に想像できてしまう課題では，やりがいや深まりは生まれない。）
- ・「やってみよう」「なぜだろう」「面白そうだ」「学びたい」（動機付け），「自分はこの課題をやれそうだ」（自己効力信念）という生徒の思いを膨らませるような教師の仕掛け準備する。

【見通す】

- ・本時のねらいを生徒の立場で具体化して示し，生徒にイメージをもたせる。また，授業の流れを黒板に掲示したり，本単元で身に付けて欲しい事項について確認したりする。
- ・教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ，課題解決の見通しをもたせるよう手立ての工夫をする。
- ・到達すべきゴールをイメージさせる「結果の見通し」と，ゴールに到達するための手順を把握させたり方法や手立てを考えさせたりする「過程の見通し」を区別する。
- ・どこが分かっていないのか，それではどうしたらよいかという認知活動を働かせる。（メタ認知）

2 積極的に学び合う「集団の学び」の工夫

【集団の学び】

- ・他者と協同学習を行えば，一人のときより多くできる。次は一人でできる。（発達の最近接領域）
- ・分かる生徒の話聞くだけで終わらないように，個人で考える場を与える。

【集団形成の目的】

- ・型だけを真似ない。グループにする目的やゴールを明確にする。

- ①一般化のため；個人の学習成果を集め，そこから規則性や共通性等を見いだす。
- ②達成感を高める；個人の学習成果を発表し合い，相互評価等を行う。
- ③学習を修正する；個人の学習の途中結果を発表し合い，相互評価を行う。
- ④考えを広げる；共通の課題に対して話し合い，多様な考えにふれる。
- ⑤考えを深める；共通の課題に対して話し合い，自己の考えを深める。
- ⑥学習支援のため；生徒同士で教え合ったり協力したりしながら課題解決を目指す。

【相手意識・豊かな表現力】

- ・既習の知識・技能を活用し，相手に合わせて自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えようとする。
- ・発言が一部の子どもに偏らないよう，一人一人が考えをまとめる時間を設ける。
- ・各教科等の特質に応じた言語活動を学習過程に位置づける。
- ・全職員の共通理解のもと，言語環境（正しい言葉，板書，掲示）を充実させる。

【話形モデル】

- ①「結論」→「根拠・理由」の順で話す。

私は〇〇だと思います。それは□□だからです。

- ②比較して、共通点や相違点を明らかにして話す。

- ・私は〇〇の考えと同じで（似ていて）□□です。
- ・私は〇〇の考えと違って□□です。

- ③例を示して話す。

- ・例えば、〇〇ということが言えます。
- ・具体的に言うと〇〇です

- ④やさしい言葉にしたり簡単にしたりして話す。

- ・〇〇を簡単に言うと□□ということです。
- ・まとめると〇〇ということです。

- ⑤習得した用語を用いて話す。

※指導要録各教科第3「言語活動」の記述を参考に、学んだ専門用語を積極的に使う！



3 「個」の学びに生かすまとめと振り返りの工夫

【価値付け】

- ・1時間（単元）の価値付けが図られ、生徒の自己有用感が高まる振り返りの場を設定する。
- ・互いの頑張りを認め、褒め、自信へとつなげる時間を設定する。
- ・生徒の頑張りを見取り、言葉かけや全体で取り上げる等、価値付ける教師の評価を行う。

【まとめ・振り返り】

- ・学習の結果を振り返り、学習を通して得られたものの意味や価値を明確に意識させ、他教科や日常生活等、他の場面に活かすことができないか意識させる。
- ・生徒の自己効力感を醸成し、学習意欲を高めることにつながるように「何ができるようになったか」「どんな力（資質・能力）を身に付けることができたのか」等、変容を記述させる。（メタ認知）
- ・学習の過程や課題解決に至るまでのプロセスが分かる板書にする。
- ・学習シートやプリントを、後の学習に生かせるようにきちんとファイルさせる。

4 生徒を学びの主体や深い学びへと導く教師のコーディネートとファシリテート

【コーディネート・ファシリテート】

- ・自分ごととしての学びを実現させるために、単元構成や授業展開をデザインする。
- ・生徒間の発言をつなげ、教師が切り返す（揺さぶる）ことで生徒の思考を深める。
 - ×「どうなりますか」→元気のある生徒だけが答える。→意図的指名へ
 - ×「そうですね」→簡単に肯定すると、思考せず次に行ってしまう→「なるほど、どう？」
 - ×「そうかな」→誤答であることを伝え、正答に近づけようとしている
- ・教師の意図的な失敗や生徒との役割交代等の場面をつくる。
- ・「わかりません」→すぐ解放しないでヒントを与えたりして話させる。（話したらほめる。）

【発問】

- ・ねらいに迫る発問をする。
- ・思考中に発問して思考を止めない。一指一事項（一つの指示に一つの事項）
- ・話を聞く準備をさせ、小さな声でゆっくりと話す。
- ・生徒の思考や学習活動をどの方向にもっていくか、計画的・意図的な発問をする。
- ・「間」を大切にする。（1分の沈黙は、2分の問いかけより子どもの思考を促す。）